木造用鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1. 一般事項

- (1) コンクリート
- ◎ コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (2003)による。
- ◎ セメントは、JISR5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- ◎ 計画調合は、工事開始前に工事管理者の承認を得ること。
- ◎ 寒中、暑中コンクリートの適合を受ける期間にあたる場合は、調合、打ち込み、養生、 管理方法など必要事項について、工事管理者の承認を得ること。
- ◎ 強度試験供試体(JASS5T-603)は、現場水中養生とし、採取は打ち込み工程毎及び 150m³につき1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔において必要本数採取する。 尚、特別支持なき場合は、1回当たり 6本以上とし、4適用に3本とする。
- ◎ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近ずけて垂直に打ち、床スラブ においては、コンクリートの自由落下高さは1m以下とする。 打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃未満の場合は 2.5時間 25℃以上の場合は 2時間以内とする。
- (2)鉄筋
- ◎ 鉄筋は JISG3112 の規格品を標準とする。
- ◎ D19 未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本 圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

2. 鉄筋加工、かぶり

(1)鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	備考
図	★R ★R 余長	T C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	₩ K M M M M	スラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。 d キャップタイ
鉄筋の余長	4d 以上	6d 以上	10d 以上 (※4d 以上)	
折曲げ内別	去寸法 Rは、SR235	は 3d以上、SD295、	SD345 は、4d 以上	 ※片持スラブ上端筋の先端

(2)鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	使用箇所	鉄筋径 d	鉄筋の種類	折り曲げ内のり R
	a) 帯 筋	D16以下	SD295A	3d 以上
ıd	あ ぱ ら 筋 スパイラル筋	\$13	KSS785	4d 以上
	スラブ筋 壁 筋			
R	至加			
	b) a) 以外の鉄筋	D16以下	SD295A	6d 以上
		D19 ~ D25	SD345	8d 以上
		D29 ~ D35	SD390	8d 以上

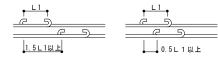
(3)鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

	コンクリートの	定:	着の長さ		特別の定着及び
鉄筋の種類	設計基準強度の	一 般	下端筋	(L3)	重ね継手の長さ
	範囲(N/mm²)	(L 2)	小 梁	スラブ	(L 1)
	21 ~ 27	35d または	25d または		40d または
SD295	21 27	25d フックつき		10d かつ	30d フックつき
SD345	18 以下	40d または	15d フック つき	15cm 以上	45d または
	10 20 1	30d フックつき) 2		35d フックつき

(注) () 内は、軽量コンクリートの場合を示す

- 1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まれない
- 2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 3. 直径の異なる材の継手は、細い方の材の継手長さとする
- 4. 直径が 28 mm 以上の場合は、重ね継手としてはならない
- 5. 鉄筋径の差が 7 mm を超える場合は、圧接としてはならない

重ね継手 (下図のいずれかとする)



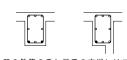
(4) かぶり厚さ

設計かぶり厚さ標準値 (JASS 5.10.1 表)						
構造部	分の種別	クリートの	種類	仕上げあり	仕上げなし	
	床スラブ・屋根スラフ	屋	内	30	30	
	耐力壁以外の壁	屋	外	30	40	
土に接しない 部分	柱 · 梁	屋	内	40	40	
即刀	耐力壁	屋	外	40	50	
	擁	壁	50	50		
土に接する	柱・はり・床スラブ・耐力壁 ・ 布基礎立上り部				50	
部分	基礎・	70	70			



異形鉄筋 1.7d 以上 (鉄筋間隔 2.7d 以上) 丸鋼 1.5d 以上 (鉄筋間隔 2.5d 以上) 粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25 以上

- (6)鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックをつける。
- a . 丸鋼
- b. あばら筋、帯筋
- c. 煙突の鉄筋
- d. 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- e . 単純梁の下端筋
- f.その他、本配筋標準に記載する筒所



上部の ●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

3. 使用構造材料

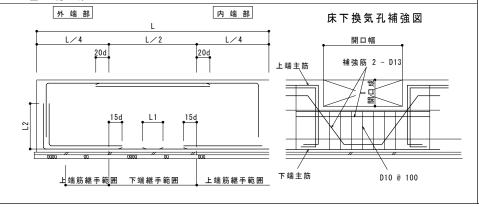
(1) コンクリート

適用箇所	種	別	設計基準強度 (N/mm²)	品質基準強度 (N/mm²)	スランプ cm	備考
捨コンクリート	普	通	Fc = (14), 15	Fq = (14), 15	20	
土間コンクリート	普	通	Fc = (18), 21	Fq = (18), 21	18	
基礎・基礎梁	普	通	Fc = 18 , (21), 24	Fq = 18 , 21 , 24	18	
単位水量は 185 kg/m³以下を原則とする。						

(2)鉄筋

	材 料	径	使 用 箇 所
B 47 M 45	■ SD295	D10, D13, D16	梁, スターラップ, スラブ, 壁筋
異径鉄筋	☐ SD345	D16, D19, D22, D25	床,梁,主筋

4. 基 礎 梁



5. 型 枠

- 型枠存置期間(下記表は平均気温10~20°の場合であり平均気温に相違がある場合には 型枠存置期間の再確認を行うこと)

	種類		せ き	を板		支 柱		
$ \setminus$	部位	基礎、はり	側、柱、壁	スラ	はり下			
$ \setminus$	セメン	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント
\ _₹	子の種		高炉セメント A種		高炉セメント A種		高炉セメント A種	普通ポルト ランドセメント
\	単期間の気 種類の気		シリカセメント A種		シリカセメント A種		シリカセメント A種	高炉セメント A種 シリカセメント
	温							A種
コンク	_ 15°C以上	2	3	4	6	8	17	28
クロ	5° C~15°	3	5	6	10	12	25	28
1 行		5	8	10	16	15	28	28
د د	クリート	5.0	N/mm²	設計基準引	設計基準強度の			
0	D圧縮強度	3.0	/N/ IIIIII	改訂基件分	虫皮の30%	85	100%	

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛り代えかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。 一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上記以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 設備関係

- 建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
- 設備機器の架台及び基礎については工事関係者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の 3倍以上かつ5 c m以上を原則とする。

令第129条の2の4の事項

- ・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
- 1. 建築設備(昇降機を除く)の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
- 2. 🔲 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は構造耐力上主要な部分に 緊結すること。
- 3. 一 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、 鉄製の支枠を設けたものを除き90cm以下とすること。
- 厚さが25㎝以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- 建築物に設ける給水、排水、その他の配管設備は、
 - イ. 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
- □ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な 管の損傷防止のための措置を講ずること。
- 管の伸縮その他変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等、 有効な損傷防止のための措置を講ずること。
- こ. 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び 衝撃の緩和のための措置を講ずること。

ファーストウッド株式会社

接 部 造 軸 組 合 標 進 図 (1)

1. 一般事項

※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる 工事に適用する。

木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。

設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書(現場説明書及び質疑回答 書を含む)をいう。

(3) 進枷する図書

設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。(※全て最新版による。)

「木 告住宅工事仕様書」 (住宅金融支援機構監修)

「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」(国土交通大臣官房官庁営繕部監修) 「木造計画·設計基準 平成23年版」(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)

「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)」(日本住宅・木材技術センター 「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)

上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。

(4) 設計図書の優先順付

設計図書の優先順位は下記による。

- 1. 指示書 (現場説明書及び質疑回答書)
- 2. 設計図
- 3 特記什样書
- 4. 本標準図

(5) 疑義

疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理 方法について協議する。

(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出

工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

7) 施工図及びプレカット図の提出

工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて 接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、 プレカット図を施工図と位置づける。

(8) 製作工場の選定、承諾

設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ 自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける

(9)各種試験・検査報告書の提出

施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

(10) 接合工法

本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。

- ・継手仕口による在来工法
- ・梁受け金物、及びホゾパイプ等による金物工法

なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。

また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる

場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。 本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。

(11) 加工部材に関する留意事項

本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。

- ・梁:部材断面が幅90mm~150mm、梁成が幅と同寸~450mm、及び材長6m以下
- ・柱:90角~150角の正方形断面、長さ6m以下

これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の 加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。

2. 材料

1) 木材及び木質材料

主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については部材リストで指定する。 (2) 接合具

a) くぎ

主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ (N釘) または 太め鉄丸くぎ(CN釘)または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ(ZN釘)または ステンレス鋼釘(S釘)またはせっこうボード用くぎ(GN釘)を用いる。

主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを 選定することとし、造作用のビス(コーススレッド等)を用いてはならない。 使用箇所・呼び径・呼び長さ等については部材リストで指定する。

c) ボルト・ナット・座金

- 1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。
- ・ボルトはJIS B 1051 , ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす
- ・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト 及びナット

【 フマーク表示金物 】

【 Dマーク表示金物 】

【 Sマーク表示金物 】

- ・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績 書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット
- 2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目 ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。
- 3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法 と厚みのある座金を用いる。

d) ドリフトピン・ラグスクリュー

主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靭性が確保されるものを 選定することとする。

主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。 節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。

(3)接合金物

a) 担格全物

構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。

- JIS A 5531: 木構造用金物
- ・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物;
- Zマーク表示金物 、又は Cマーク表示金物
- 同等認定金物・Dマーク表示金物
- 性能認定金物: Sマーク表示金物

上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価 機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として 使用できる。

原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入 しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む 場合はこの限りではない。

(5) 防腐防蟻処理及び耐候処理

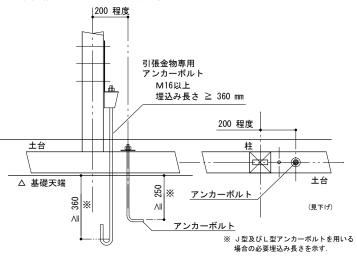
土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。

3. アンカーボルト

1) 十台固定用アンカーボルト

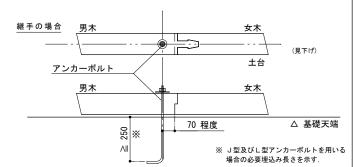
- a). アンカーボルトの埋設位置; アンカーボルトの埋設位置は以下による。
- -1. 耐力壁(筋交い, 合板仕様共通)の下部;

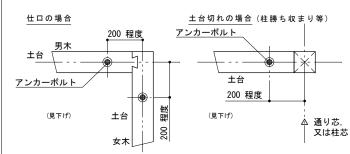
耐力壁(筋交い、合板仕様共通)の下部は、その両端の柱の下部に近接した 位置(柱芯より200mm内外)とする。



-2. 土台切れの端部及び、土台の継手仕口:

土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。 当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。





- -3. その他; 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。
- (2) 引張金物専用アンカーボルト
- a). 引張金物専用アンカーボルトの径 引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。
- b). 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ 引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは. J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他の アンカーボルトを用いる場合は.

引張金物の耐力を満た埋込み長さとする。

4. 接合一般

1) 紅接合

- ・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。
- ・面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。
- ・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込ん だうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。
- ・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
- ・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。

- ・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。
- ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。 比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60~75 %

上記以外の樹種・・・・・呼び径の 40~70 %

※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。

- ・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適している ことを確認する。
- ・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。 ・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを 確認する。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれる
- タイプのものについては、メーカーの使用条件による。 ・引張力を負担する構造上主要な筒所のボルトで、設計図書で指定する部位のもの
- については、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。

- ・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。
- ・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適 していることを確認する。
- ・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。;

比重が 0.5 以上の樹種・・・・呼び径の 60~75 % 上記以外の樹種 ・・・・・呼び径の 40~70 %

- ※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。 ・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて 行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。
- ・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。
- ・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造 ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。

・呼び各 M12以下・+1 0mm

・呼び径 M16以上; +1.5mm

(5) ドリフトピン接合

- ・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。
- ・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に 用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。
- ・施工に際しては、孔に対しテーパーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を 加えてはならない。

(6) 木栓接合

・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。

設計者

1級建築士 第333251号

株式会社ATA一級建築士事務所

富山県知事登録 第(1)2111号

一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

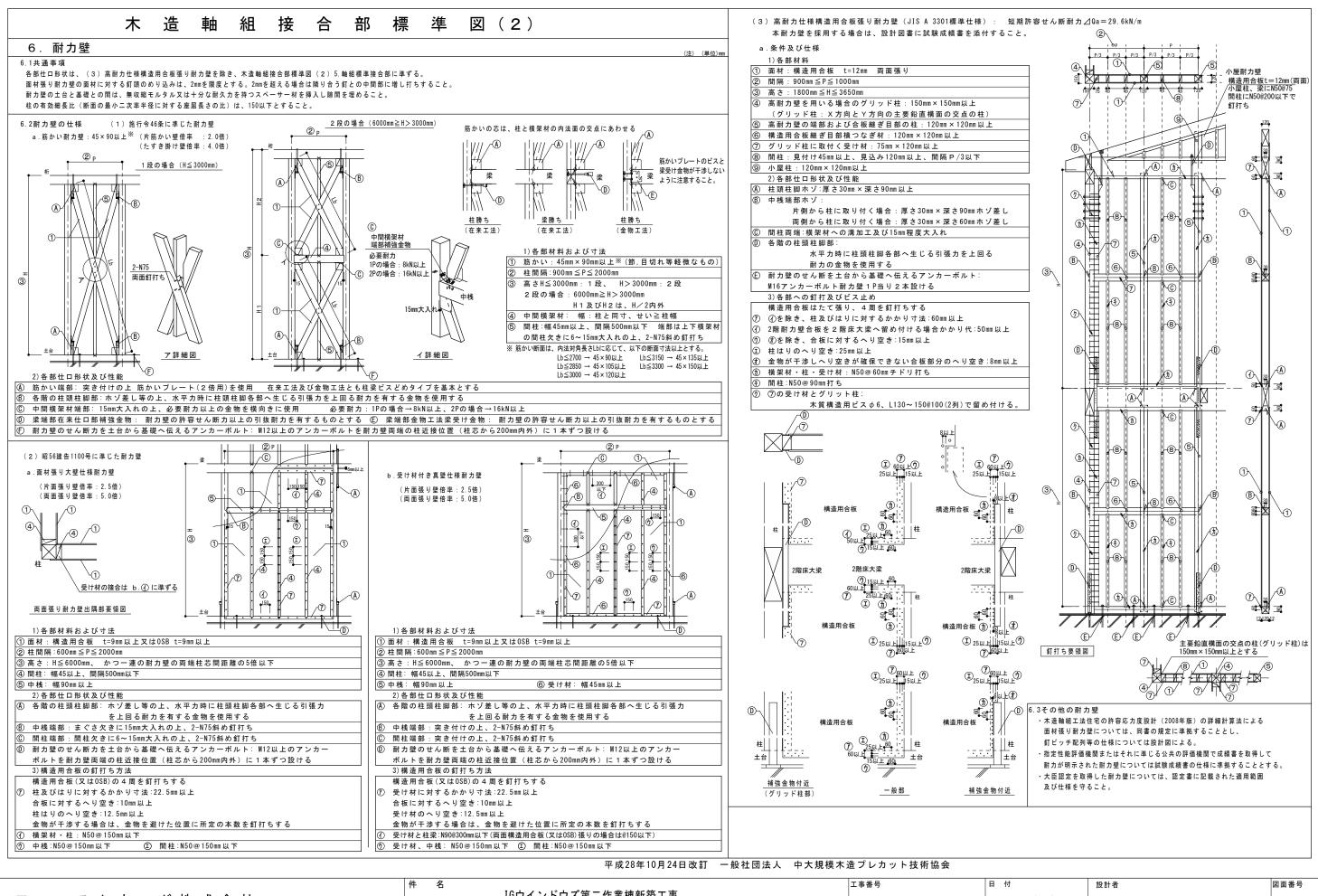
2020/09/11

- ・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いる ものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。
- ・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等 が生じないよう注意し、無理な打撃を加えてはならない。
- ・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。

平成27年 9月15日発行 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

ファーストウッド株式会社

図面番号



ファーストウッド株式会社

福井県福井市川尻町第40号126番地1 TEL 0776-88-0015 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0105

IGウインドウズ第二作業棟新築工事

木造軸組接合部標準図(2)

図面名

縮尺

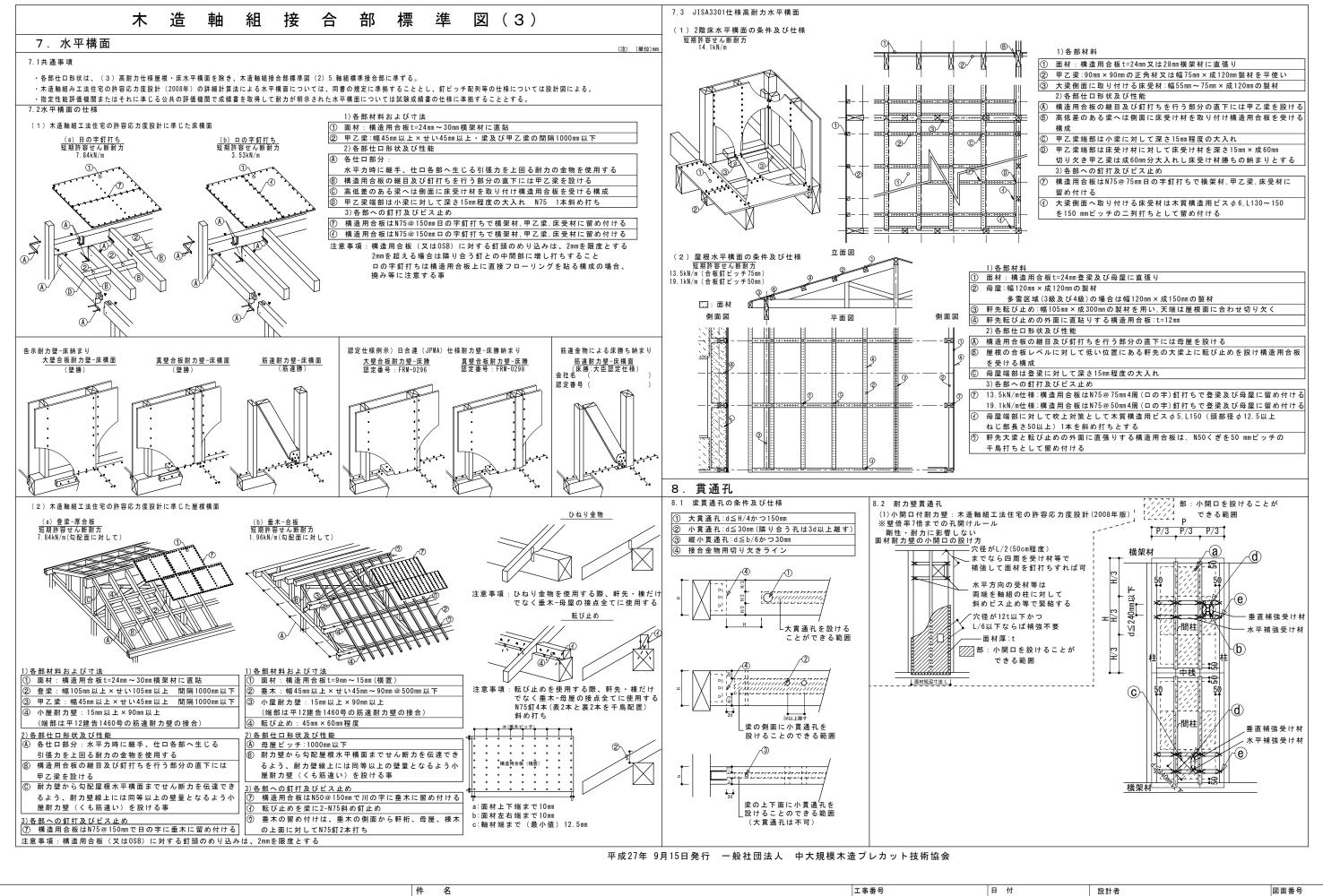
2020/09/11

1級建築士 第333251号 株式会社ATA一級建築士事務所

富山県知事登録 第(1)2111号

一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

S - 03



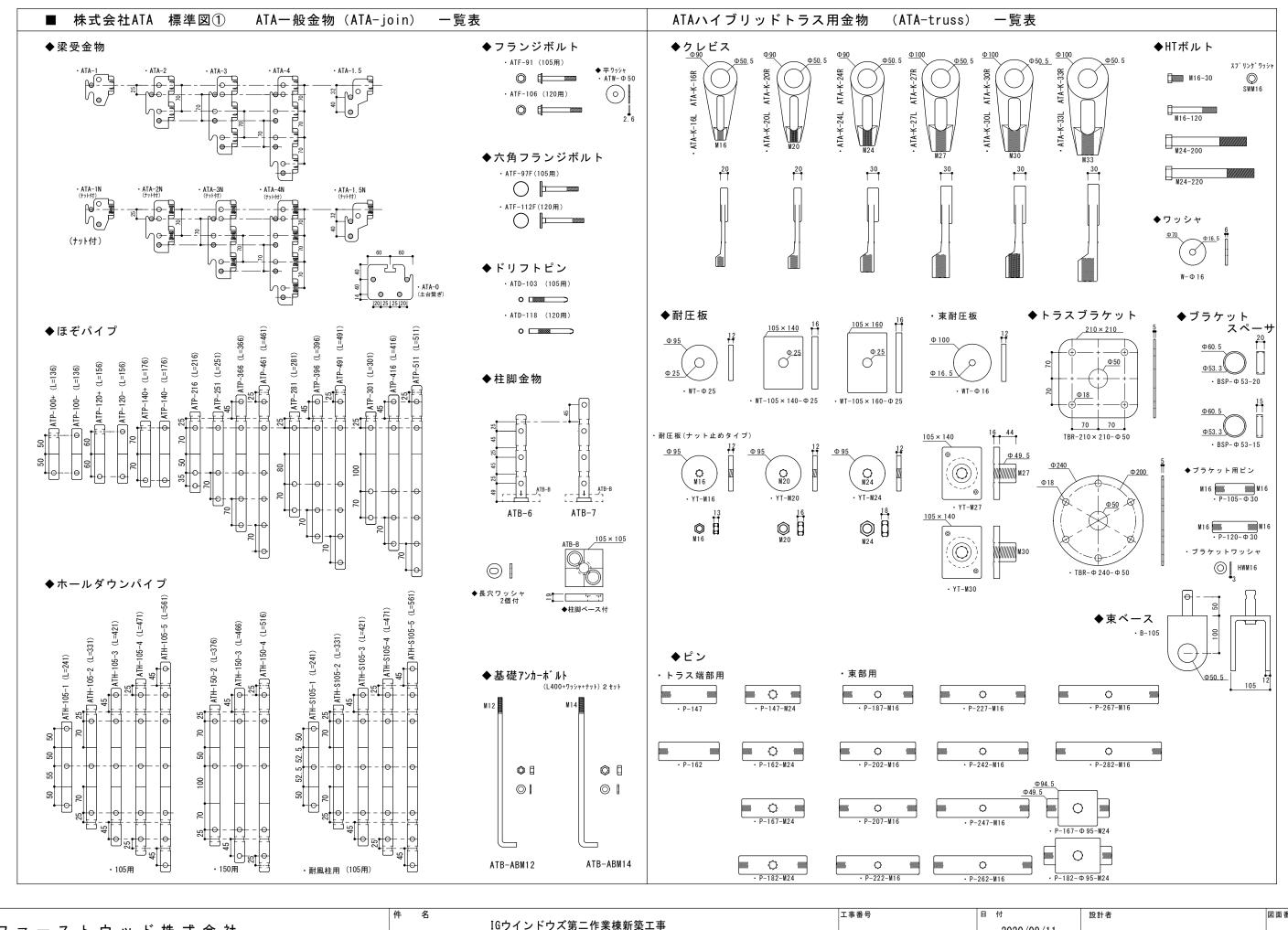
ファーストウッド株式会社

 件 名
 IGウインドウズ第二作業棟新築工事
 工事番号
 日 付 2020/09/11
 設計者 1級建築士 第333251号 株式会社ATA 一級建築士事務所富山県知事各録 第(1)2111号 一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

 図面名
 木造軸組接合部標準図(3)

S-04

福井県福井市川尻町第40号126番地1 TEL 0776-88-0015 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0105



ファーストウッド株式会社

福井県福井市川尻町第40号126番地1 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0105 IGウインドウズ第二作業棟新築工事 図 面 名 木造軸組接合部標準図(4)

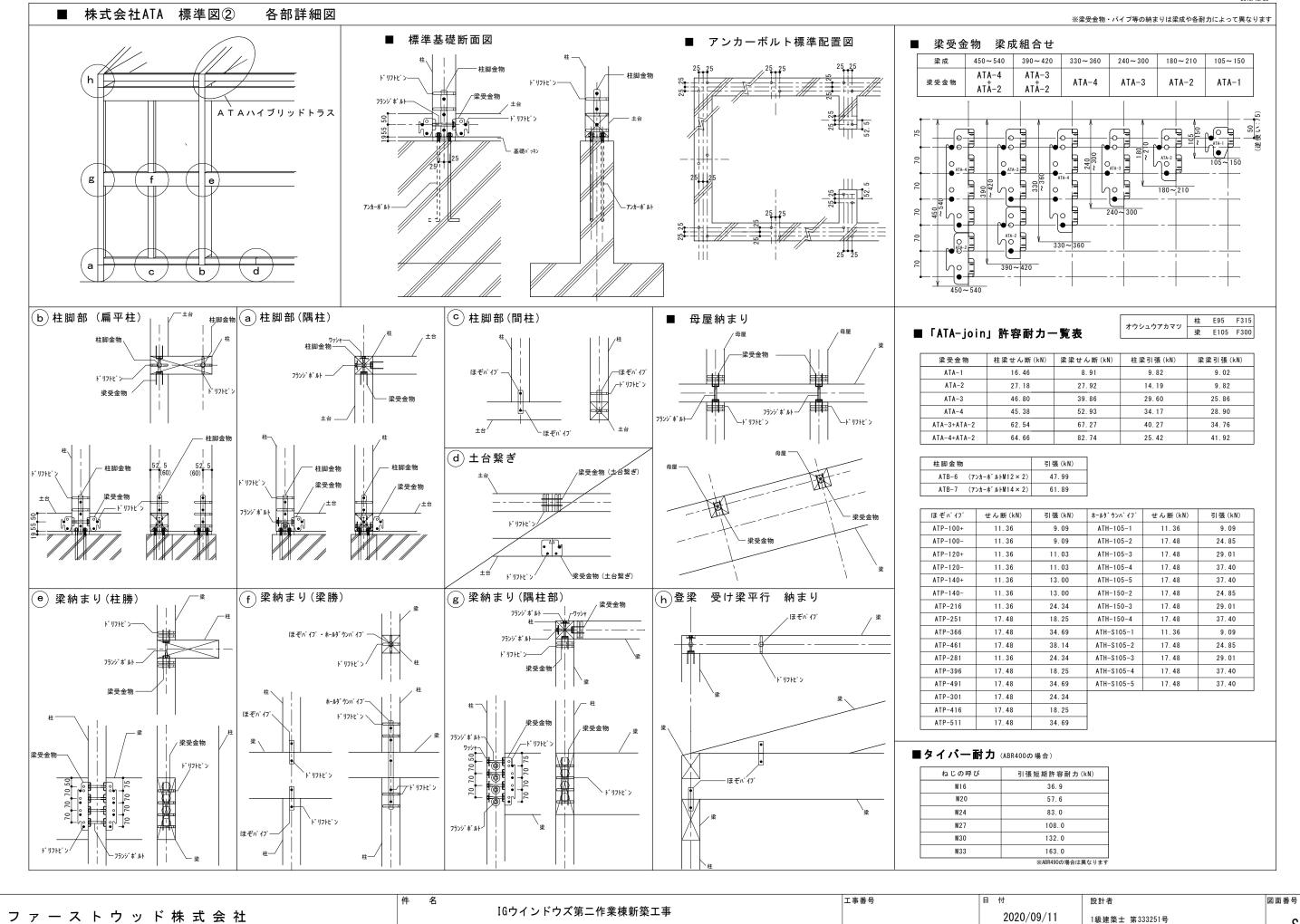
工事番号	日 付	設計者	図面番号
	2020/09/11	1級建築士 第333251号	S-05
縮尺		株式会社ATA一級建築士事務所	3-05
714 / C		富山県知事登録 第(1)2111号	
		一級建築士 第207390号 石橋 憲耿	

S-06

株式会社ATA一級建築士事務所

富山県知事登録 第(1)2111号

一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

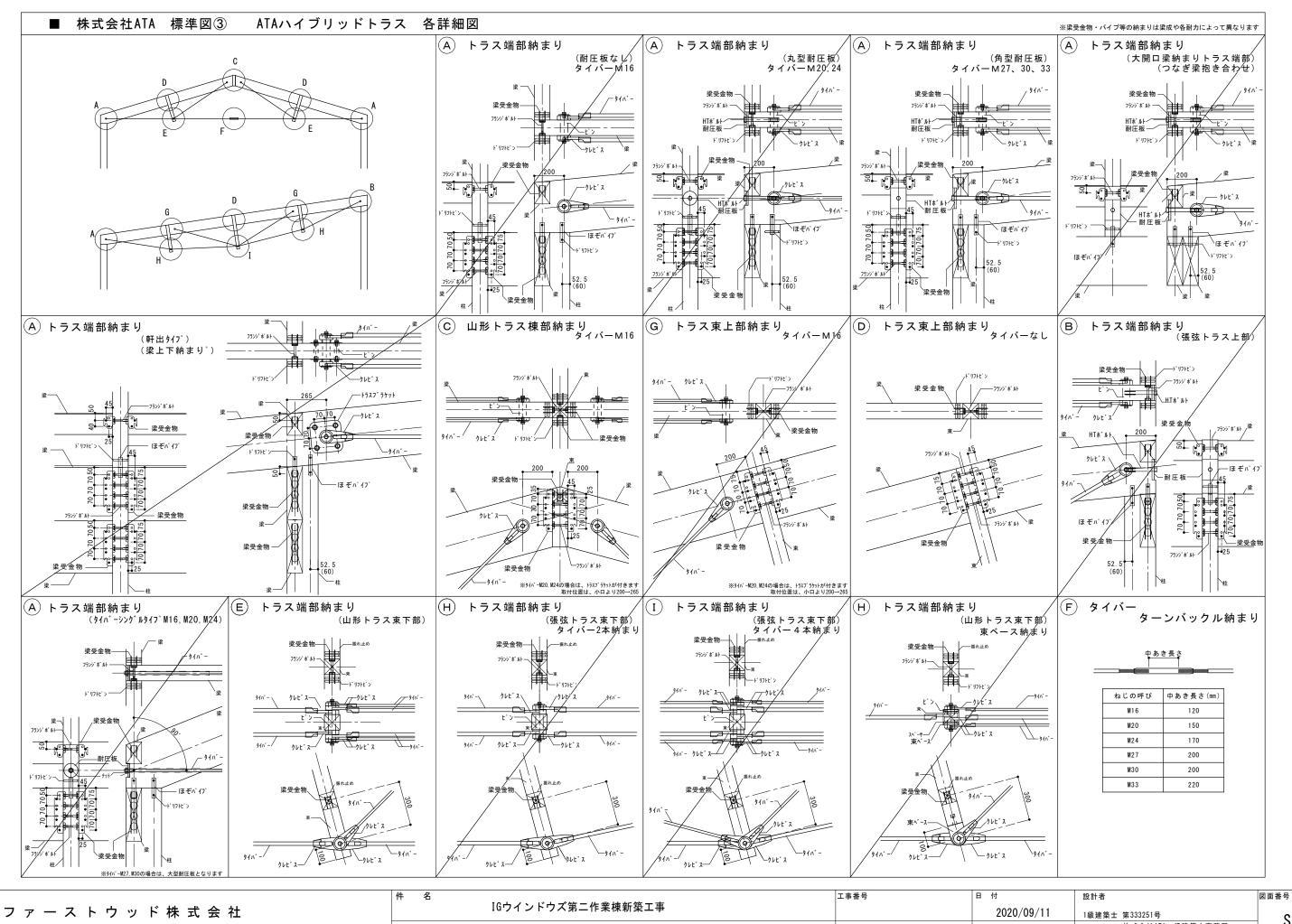


縮尺

福井県福井市川尻町第40号126番地1 TEL 0776-88-0015 を設定を表現している。 TEL 0776-88-0105 では、1489号 FAX 0776-88-0105 では、1489号 TAX 0776-88-0105 では

図面名

木造軸組接合部標準図(5)

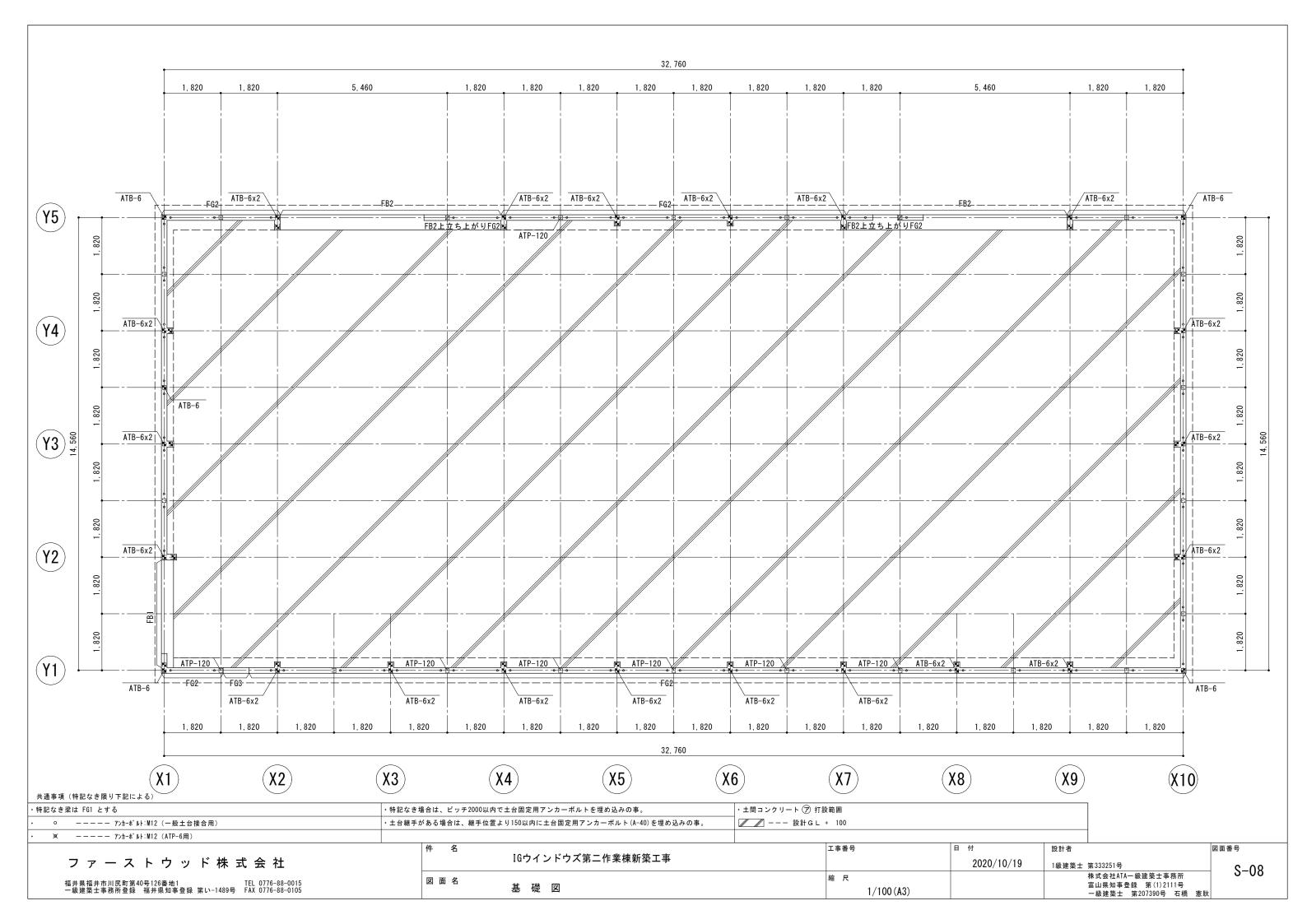


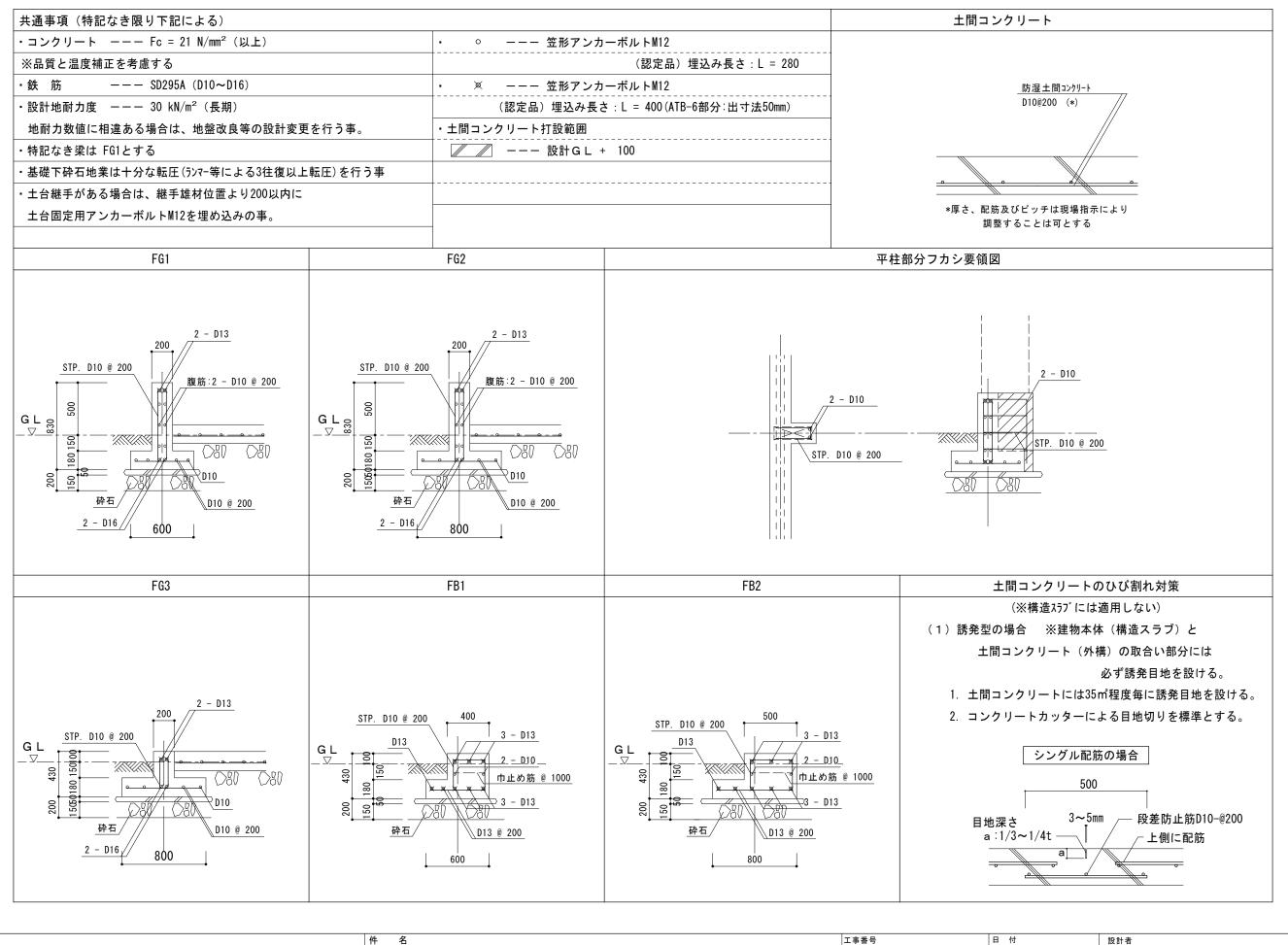
福井県福井市川尻町第40号126番地1 TEL 0776-88-0015 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0105

図面名 木造軸組接合部標準図(6) 縮尺

株式会社ATA一級建築士事務所 富山県知事登録 第(1)2111号 一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

S-07





福井県福井市川尻町第40号126番地1 TEL 0776-88-0015 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0105

1+	10	IGウインドウズ第二作業棟新築工事
図面	名	基礎リスト

 工事番号
 日 付

 2020/09/29

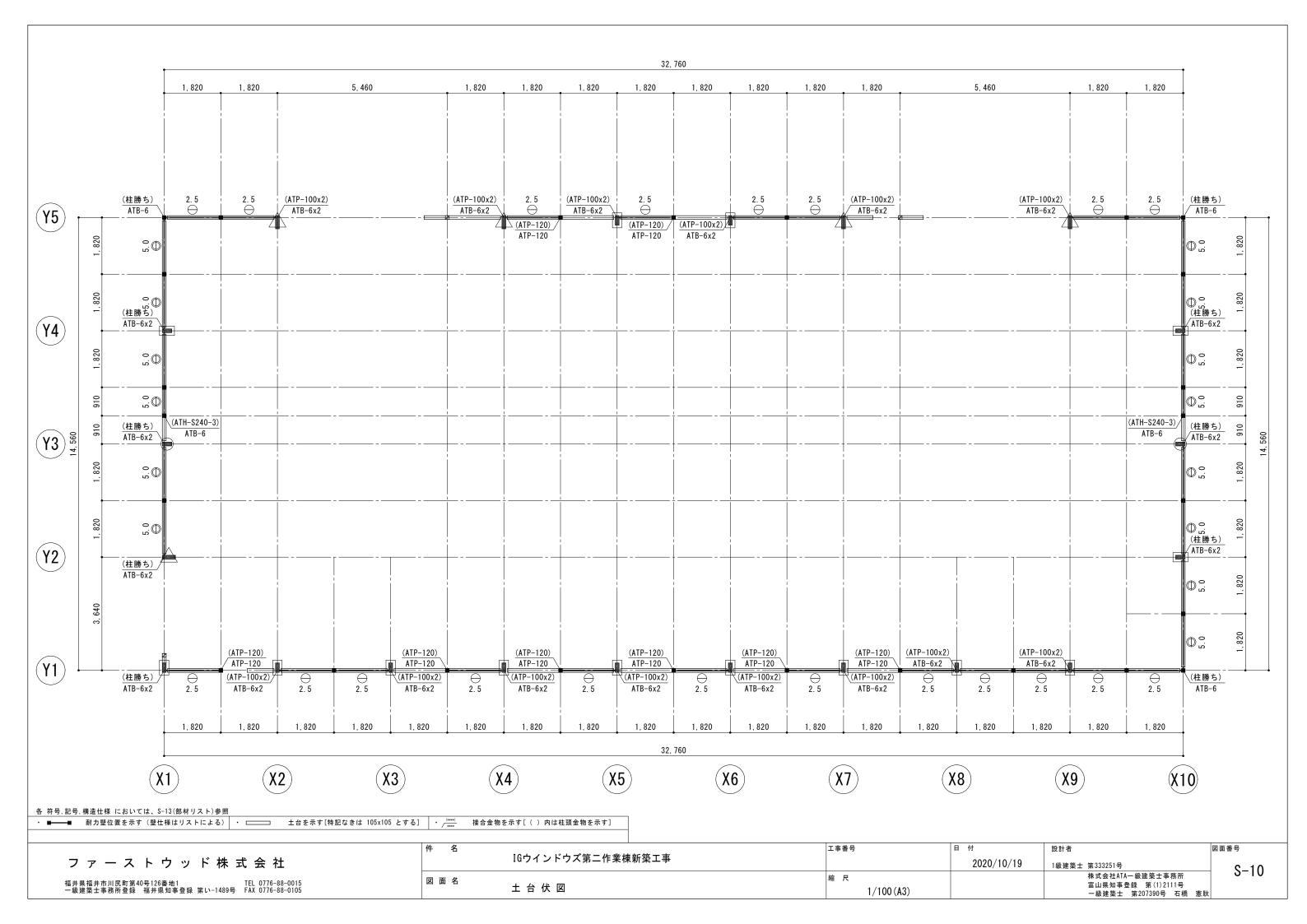
 縮 尺

1級建築士 第333251号 株式会社ATA-級建築士事務所 富山県知事登録 第(1)2111号

一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

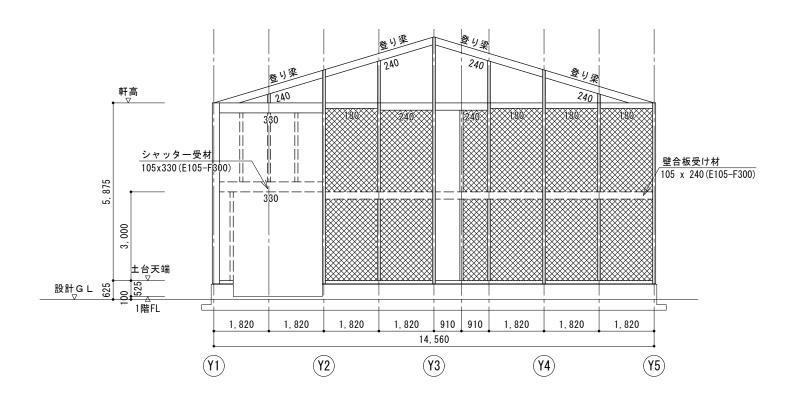
S-09

図面番号

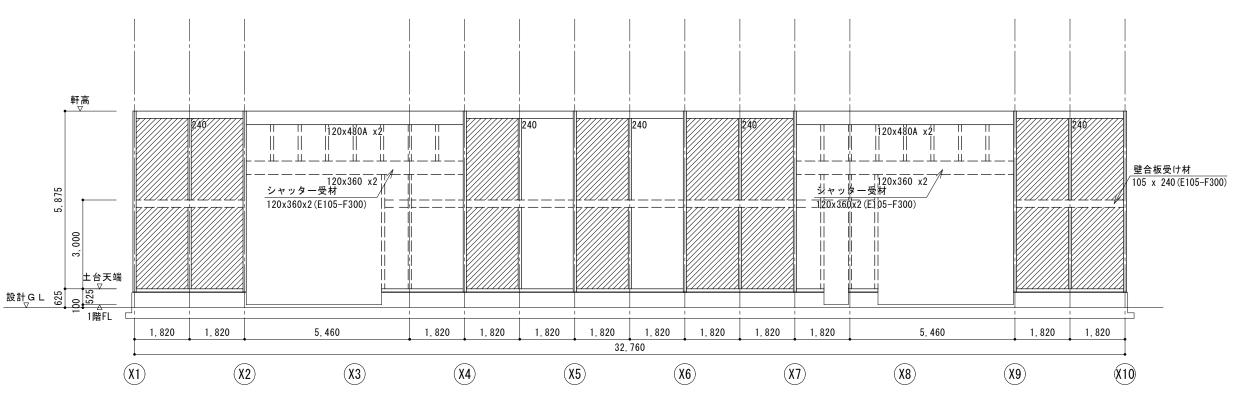


柱リス	-					柱リスト	-	(天井伏	図)			<u></u> 柱リスト		 (小屋伏	図)
記号	1	寸;	 法		材 種	記号		寸湯			材種	記号		(72)	·—· 材 種
		<u></u> _			────┴──── ホワイトウッド集成材	⊗		東 105			ホワイトウッド集成材	X	下階束	を示す	ホワイトウッド集成材
		 管柱 105	5 x 105		E95-F315						E95-F315	/ \			E95-F315
					(同一等級構成)						」 (同一等級構成)				(同一等級構成)
		 管柱 105	5 x 240		欧州赤松集成材	X		下階柱を	 示す						
			5 x 270		E105-F300	/ \									
) x 420	(:	対称異等級構成)										
/ *******															
						横架材り	 スト					 横架材リスト	•	 (小屋伏	[図)
X		下階柱を	 示す			記号	寸 法	材種	記号	寸 法	材種	記号	名 称	寸 法	· 材 種
横架材						105	105 x 105		1 1		欧州赤松集成材		母 屋	105 x ∼	
記号	1	寸 法			 ∮	120	105 x 120		120 x 480A	120 x 480	E120-F330		棟木	105 x 210	E105-F300
	- 1 /	105 x 105	5			150	105 x 150			120 % 100	(対称異等級構成)	******	101		(対称異等級構成)
				E105-F300(対称異		180	105 x 180	-			(2112/2017)		合板受け	90 x 90	米松KD
筋かい	リスト			(0.113.5)		210	105 x 210	│ │ 欧州赤松集成材			1				An least of the
記号		 材	記号	倍率	部 材	240	105 x 240	E105-F300			1				
0.5	###			排	· 9.0 mm (片面)	270	105 x 270	」 (対称異等級構成)		1				
2.5		(外部大壁仕様)	5.0	h //	:ックス (FRM — 0153)	300	105 x 300								
						330	105 x 330								
						360	105 x 360				1				
						390	105 x 390				-				
						420	105 x 420								
· 耐震ねし	 じモックス仕様はメ	一カーの仕様に	」 こ準ずるこ	اع ا			き横架材は 105								
101722 10		22 02 IT 1941						240 EW(E105-F300)							
・筋かい	 \方向を示す			4				5 x 330 , 120 x 3	60 EW(E105-F	300)					
				71				·	<u> </u>						
				/											
			$\ \cdot \ / \ $												
				<u> </u>											
接合金	 物リスト	※ (株)ATA	│ 同等品			特記なる	と限り下記によ	- る							
記号	名 称	引抜耐力	記号	名 称	引抜耐力	・木材の等	級は、無等級以	以上の材料を使用す	 る事。						
ATP-100	ホソ゛ハ゜イフ゜	9.09 kN	ATB-6	柱脚金具	47. 99 kN	・屋根下地	対は構造用合材	支⑦ 24(釘 N75 @ 1	50以下、4周	 釘打ち)を使用					
ATP-120	ホソ゛ハ゜イフ゜	11.03 kN	ATB-7	柱脚金具	61.89 kN			この断面を大きくす							
ATP-140	ホソ゛ハ゜イフ゜	13.00 kN	1					5場合、金物で補強							
ATP-216	ホソ゛ハ゜イフ゜	24. 34 kN	1			・地盤面か		囲については、防	ま防蟻処理を)	 施す事。					
			HD25	ビス止めホールダウン	25. 00 kN			#ATA【ATA-join】 扌							
			HDHi	高耐力ホールダウン				, , ,		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
・特記なる	き柱脚・柱頭金物は	:、ATP-100を使	用する。		I										
	物は同等以上の許容			 :する。											
	は、柱頭金物を示														
横架材	接合金物リスト	対	応梁せい	(特記なき限	り[A]以上とする)										
[A]	ATA-1 (9. 02kN)	1	105~150												
[B]	ATA-2(9.82kN)	1	180~210												
[C]	ATA-3 (25. 86kN)		240~300												
[D]	ATA-4 (28. 90kN)	3	330~360												
[E]	ATA-3 + HD25 (50	. 86kN) 2	240~300												
		L				<u>'</u> 名					工事番号		日付	設計者	図面番号
ファ	ァーストウ	ッド株式	大会 社	•			IGウインド	ウズ第二作業棟新	築工事				2020/0	0 /00	MT 000051 F
福井県福	a并市川尻町第40号126番地	1	TEL 0776-88	-0015	図面	i 名	☆ #↓↓ . — .				縮尺				#式会社ATA一級建築士事務所 富山県知事登録 第(1)2111号
_ 级 建 领	ā井市川尻町第40号126番地 毫士事務所登録 福井県知፤	事登録 第い−1489号	FAX 0776-88	-0105			部材リスト								一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

X1通り軸組図 1/125



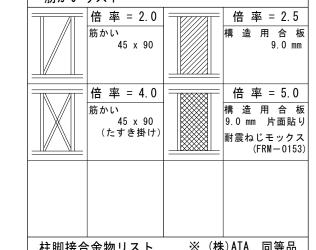
Y5通り軸組図 1/125



横架材	リスト	
記号	寸 法	材 種
105	105 x 105	│ - 欧州赤松集成材
150	105 x 150	
240	105 x 240	E105-F300
330	105 x 330	(分析用体组排件)
360	105 x 360	─ (対称異等級構成) │
		欧州赤松集成材
		[A] //II 小位未以的
120x480Ax2	120 x 480	E120-F330
		(分析用生物集成)
		─ (対称異等級構成) │

※ 特記なき横架材は 105 とする

筋かいリスト



性脚按	合金物リスト ※	(1木)AIA 미寺田
記号	名 称	引抜耐力
ATP-100	ホソ ゛ ハ゜イフ゜	9.09 kN
ATP-120	ホソ ゛ ハ゜イフ゜	11.03 kN
ATP-140	ホソ゛ハ゜イフ゜	13.00 kN
ATP-216	ホソ ゛ ハ゜イフ゜	24. 34 kN
ATB-6	柱脚金物	47.99 kN
ATB-7	柱脚金物	61.89 kN

- ※ 〇印は引抜き金物使用箇所を示す。
- ・特記無き柱と横架材の接合部は 全てATP-100を使用する。
- 注) 工事にあたり、柱及び梁の断面を大きく する事は可とする。
- ・プレカットの納まり上柱勝ちは可とする。

ファーストウッド株式会社

福井県福井市川尻町第40号126番地1 一級建築士事務所登録 福井県知事登録 第い-1489号 FAX 0776-88-0015

件	名	IGウインドウズ第二作業棟新築工事
図面	名	軸 組 図

日	付	Г
	2020/10/19	
		Г

工事番号

縮尺

1/125(A3)

設計者

1級建築士 第333251号 株式会社ATA一級建築士事務所 富山県知事登録 第(1)2111号 一級建築士 第207390号 石橋 憲耿

S-14

図面番号